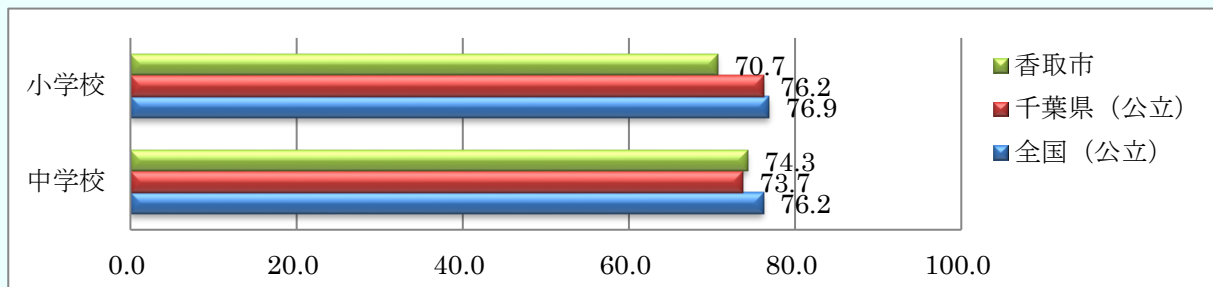


7 生活習慣や学習習慣等について

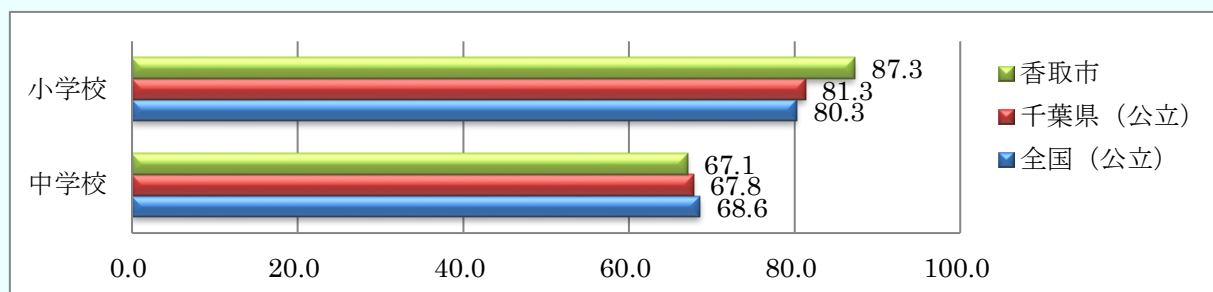
児童・生徒質問紙調査の結果から

※児童・生徒質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした児童・生徒の割合（％）

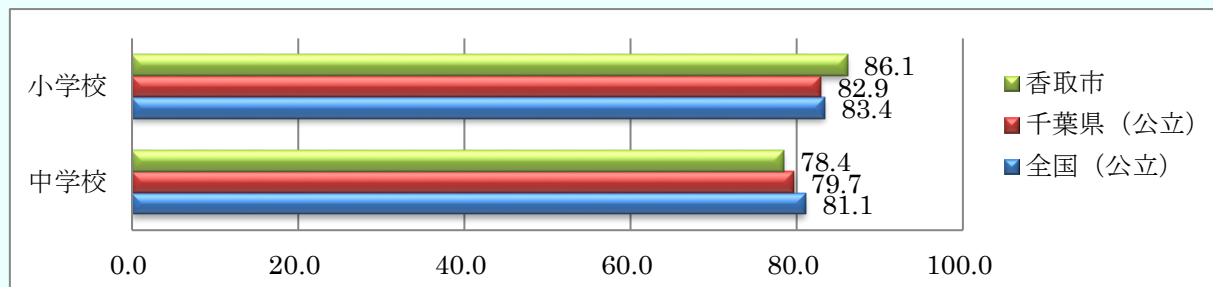
○ 自分には、よいところがあると思いますか



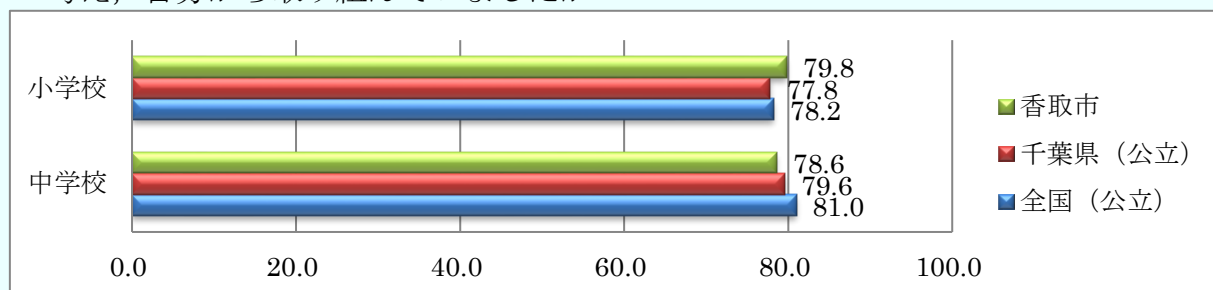
○ 将来の夢や目標を持っていますか



○ 学校に行くのは楽しいと思いますか

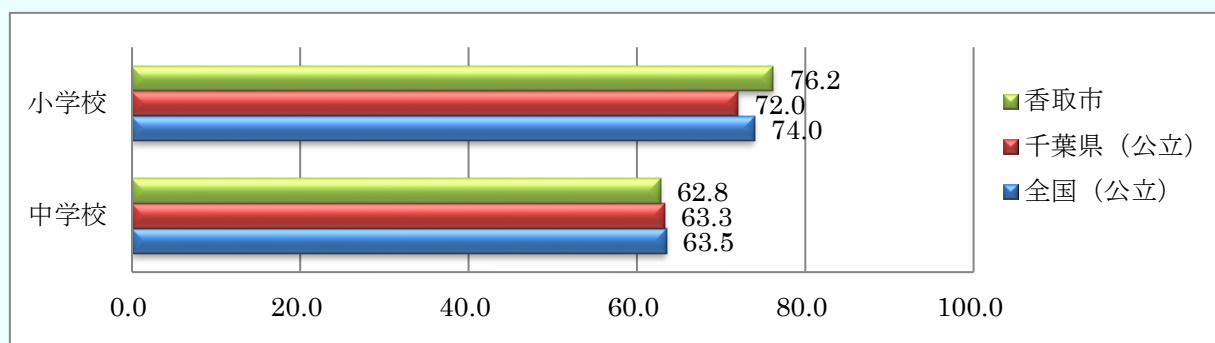


○ 小学5年生（中学2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

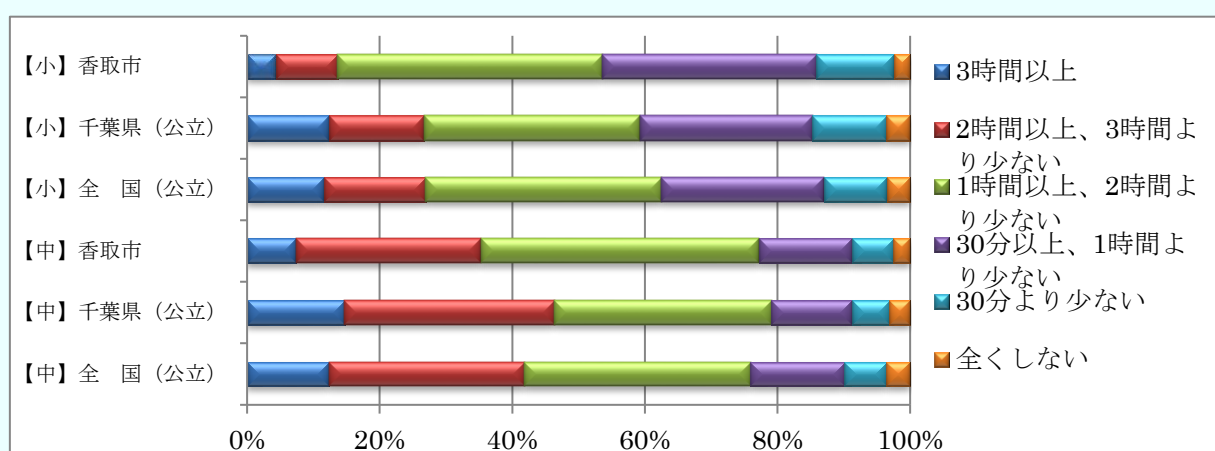


「自分にはよいところがあるか」という質問に対し、小学校でやや低い値となっています。しかし、将来への目標や学校に対する好意は小学校の方が県や全国よりも高い値です。小学校では、引き続き自己肯定感や自尊心を高めるような取組に課題があり、中学校では生徒の自主性を伸ばすような取組に課題があるといえます。

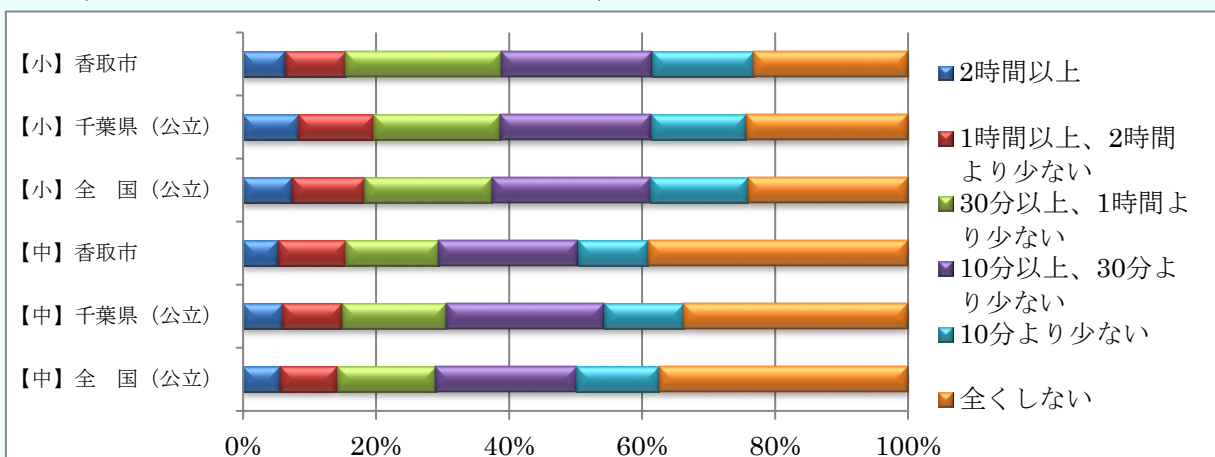
○ 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)



○ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

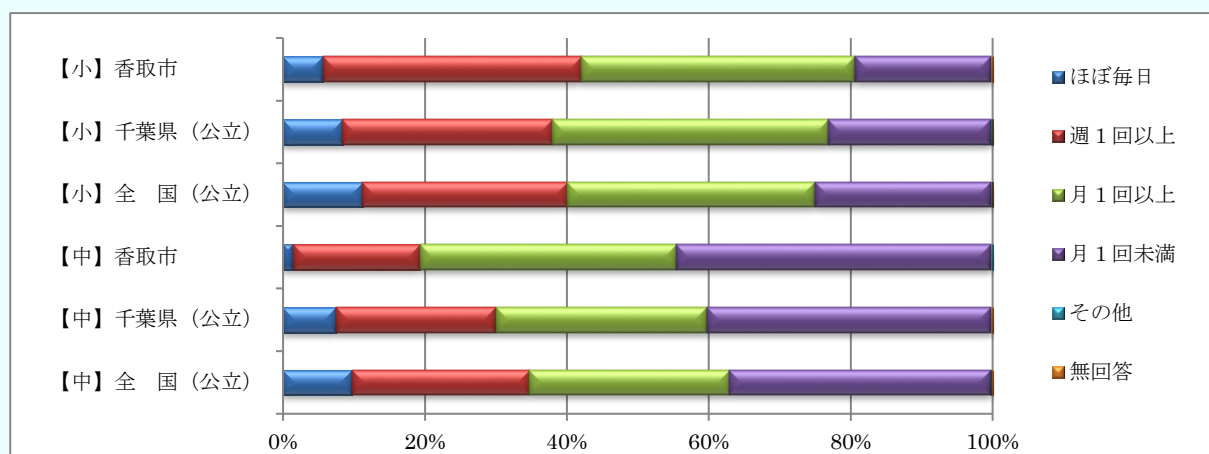


○ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

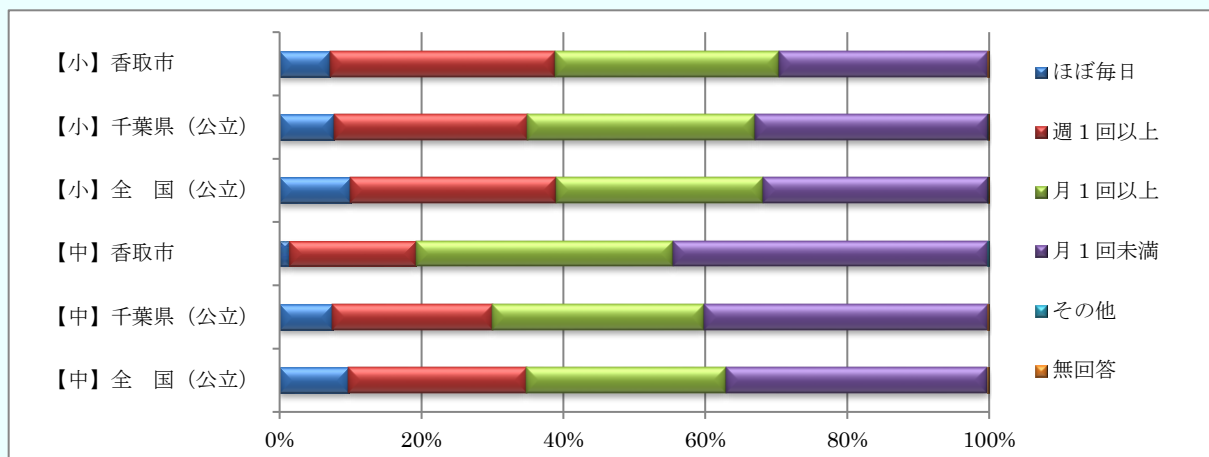


「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という設問に対して、2時間以上勉強をする割合が、小学校・中学校ともに県と全国を下回っています。多くの児童生徒が家庭学習に取り組む習慣を身に付けていますが、学習時間に課題が見られます。読書の時間に対しては、小学校・中学校ともに全国と同程度であるといえます。

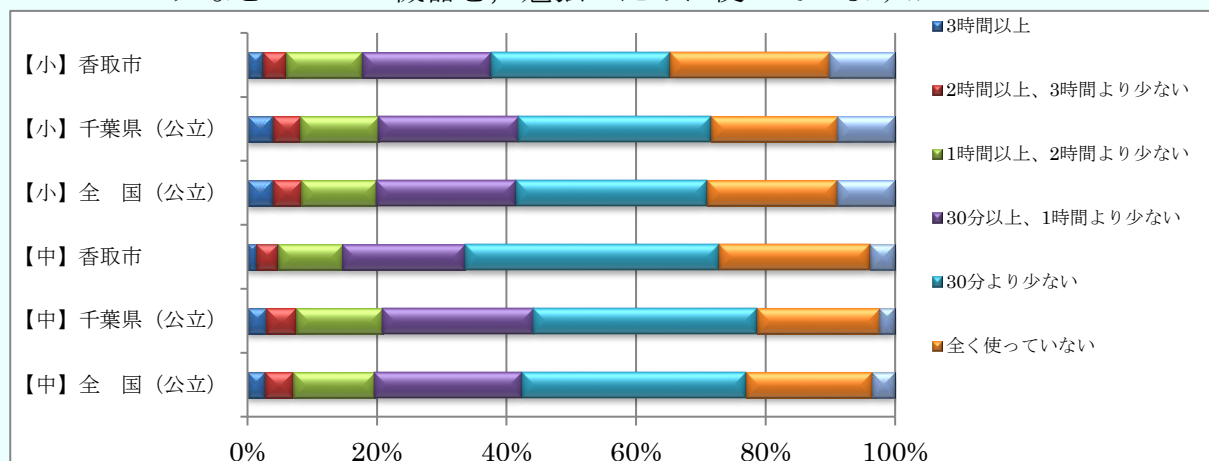
○ 小学5年生（中学2年生）までに受けた授業で、コンピュータなどのI C T機器をどの程度使用しましたか



○ あなたは学校で、コンピュータなどのI C T機器を、他の児童・生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか

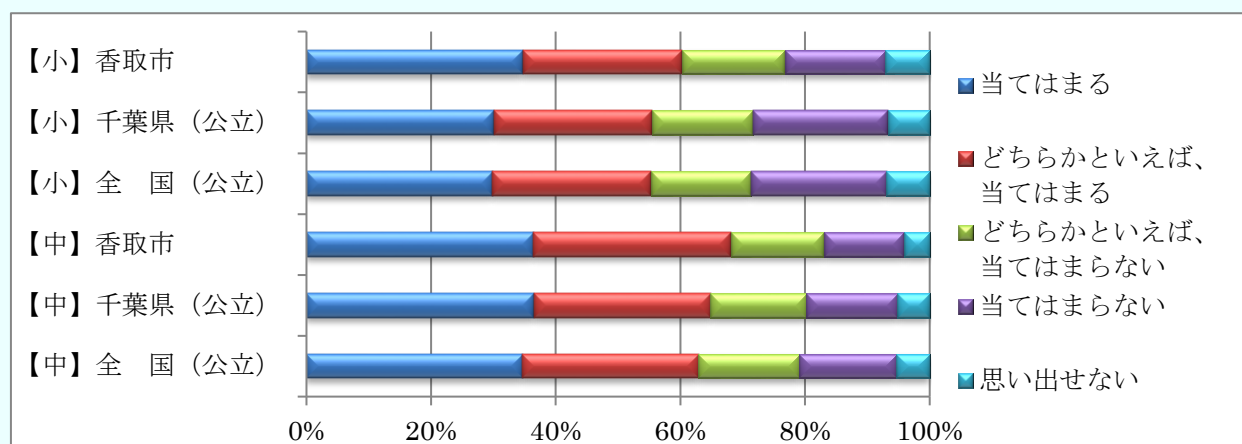


○ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのI C T機器を、勉強のために使っていますか

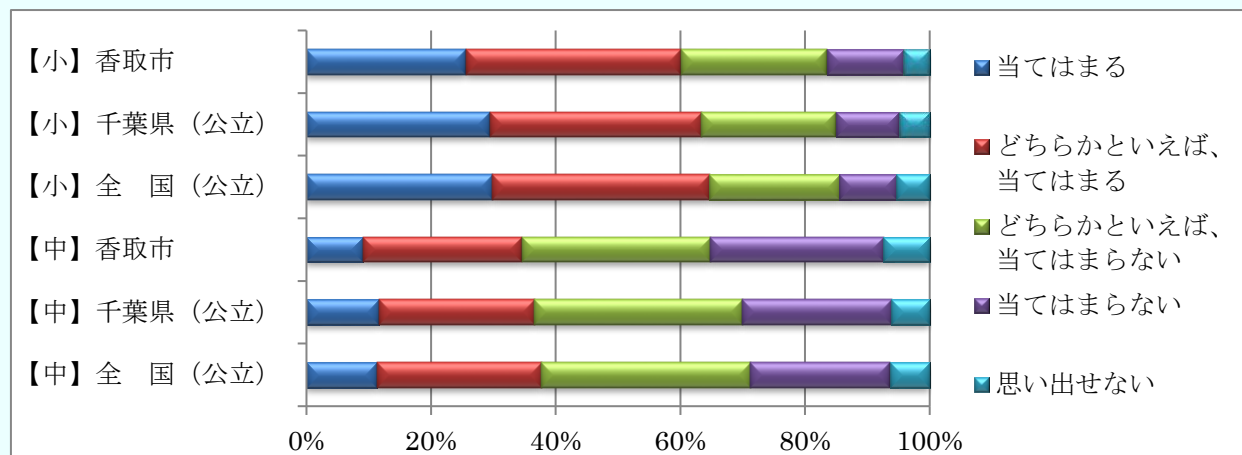


I C T機器の授業での活用は、昨年度まではやや少なかったものの、今年度を含めると小学校では活用が進んでいることが分かります。中学校では、県や全国を下回っています。また、勉強のためにI C T機器を使用する頻度は、小学校・中学校ともにやや少ないといえます。

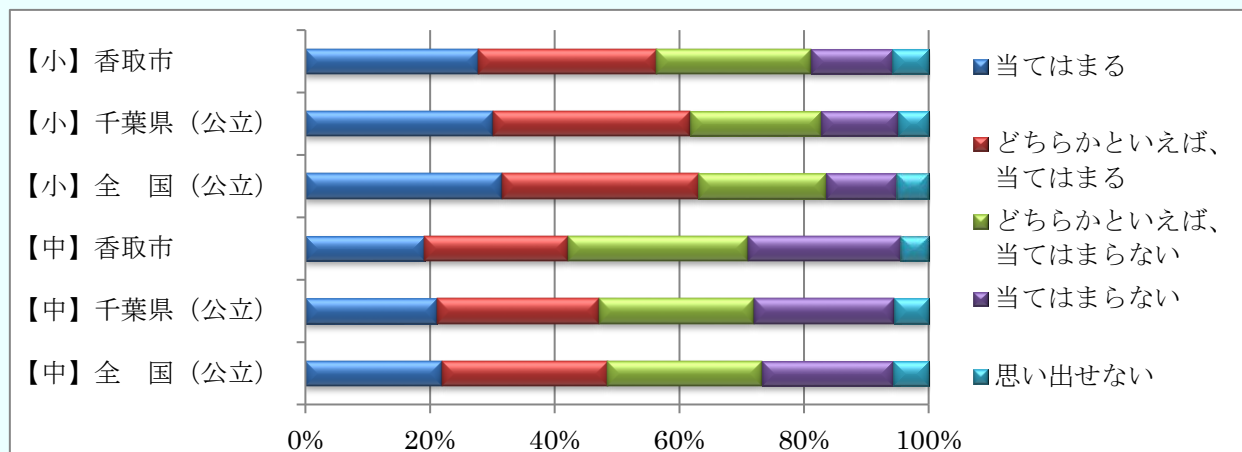
○ 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか



○ 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか



○ 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか

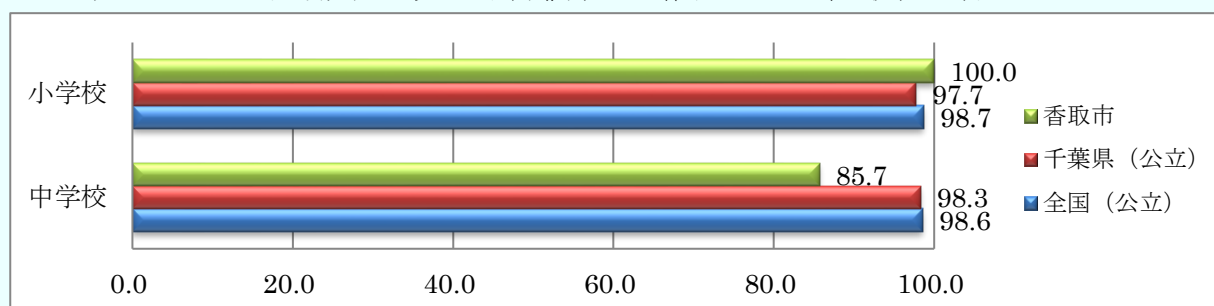


新型コロナウイルスの感染拡大で休校していた期間についての質問には、小学校・中学校ともに県や全国と比べるとやや高い割合で学習に不安を感じていたことが分かります。また、規則正しい生活を心掛け、自分で計画的に学習を進めていた児童生徒はやや少ないという結果が見られます。

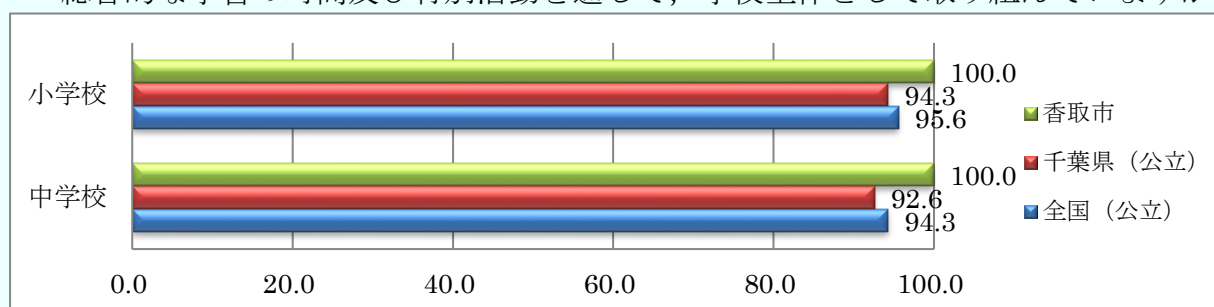
学校質問紙調査の結果から

※学校質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした学校の割合（％）

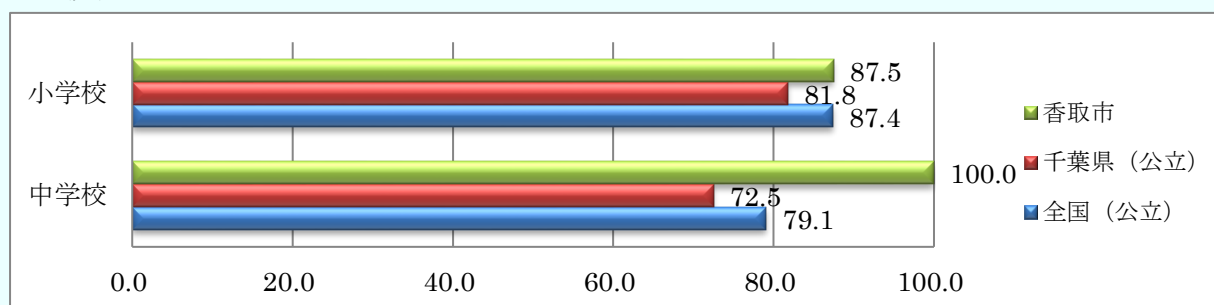
- 調査学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか



- 言語活動について、国語科だけでなく、各教科，特別の教科道徳，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか



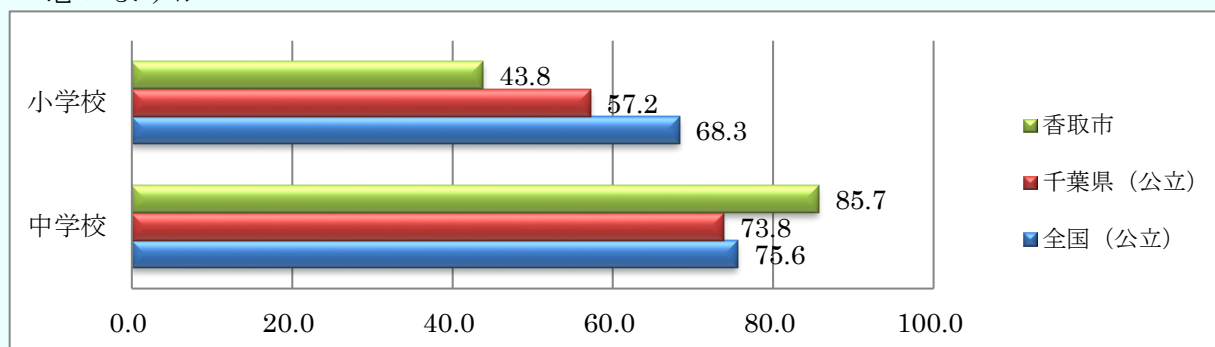
- 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか



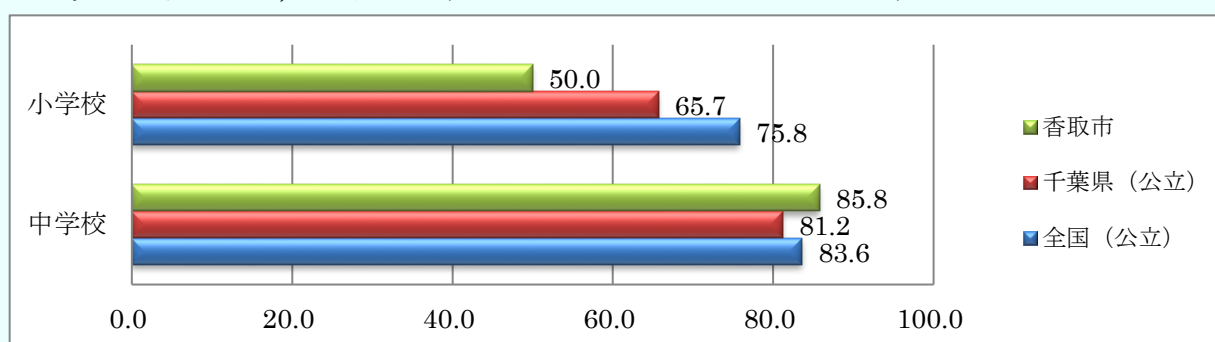
「学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」という質問には、小学校は積極的に取り組み、児童の自己肯定感や自尊心の向上に取り組んでいることが分かります。一方、中学校では課題が残ります。

言語活動については、小学校・中学校ともに学校全体で取り組んでいます。また、中学校では、言語活動の実施状況や課題について全教員で共通理解を図っています。生徒質問紙の生徒に対する質問「生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」に対して、「できていない」と答える生徒が全国に比べて高い割合であることから、中学校ではこの課題を重視して改善しようとしていることが伺えます。

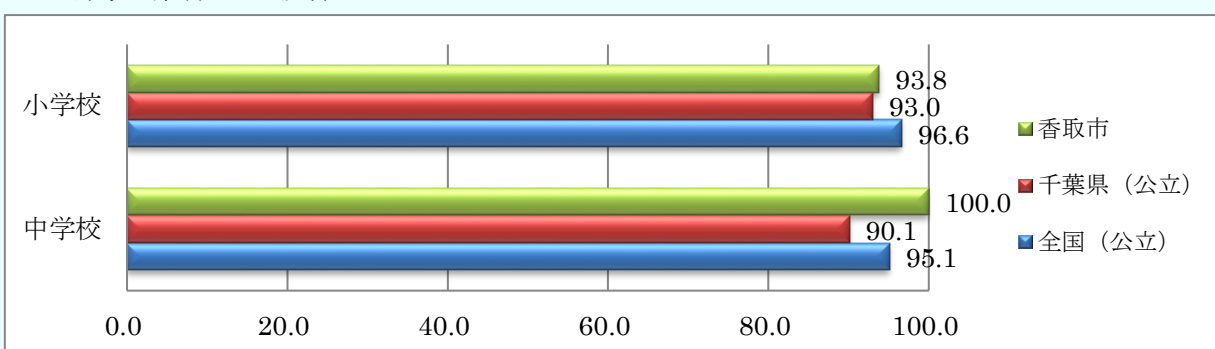
- 調査対象学年の児童・生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか



- 調査対象学年の児童・生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



- 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、児童・生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか



小学校では、「児童が、自分の考えがうまく伝わるよう発言や発表を行っているか」、また、「自分の考えを深めるような話し合いができているか」という質問には半数程度の学校しか「できている」と捉えていないことが分かります。これに対して、中学校では8割以上で「できている」と捉えており、県や全国の平均を上回っています。これについては、小学校で「できていない」と感じていたために様々な手立てを講じて学習を重ねた結果、中学校で力を発揮することにつながったと推測することができます。

「授業の中で児童・生徒の発言や活動の時間を確保しているか」との質問は、小学校・中学校ともに高い割合を示しており、積極的に言語活動を行っていることが伺えます。